

橘処理センター整備事業に係る 条例環境影響評価準備書 説明会

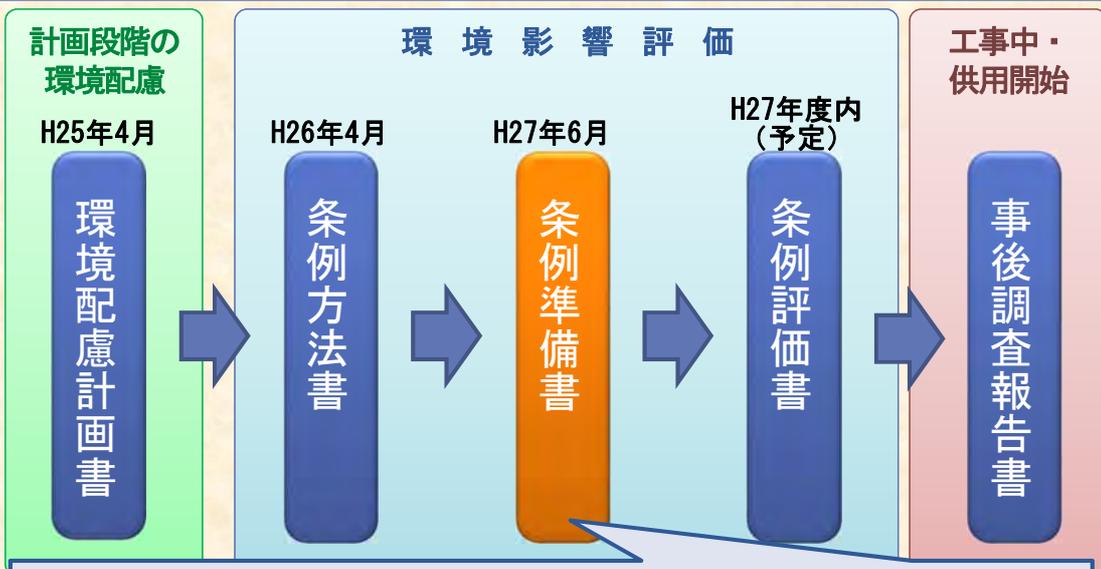


川崎市

1/80

はじめに

川崎市環境影響評価に関する条例に基づく
環境影響評価（環境アセスメント）手続



- 条例方法書において選定した方法に基づき、調査・予測・評価を実施し、その結果をとりまとめました
- 環境影響評価審議会や皆様へ説明し、意見書等をいただきます

橘処理センター整備事業について

1. 事業計画

本市のごみ処理施設



	王禅寺 処理センター	橘 処理センター	堤根 処理センター	浮島 処理センター
竣工 年月	平成24年3月	昭和49年11月 【平成27年3月休止】	昭和54年3月	平成7年9月
処理 能力	450t/日	600t/日	600t/日	900t/日

項 目		計画施設	既存施設
ごみ焼却 処理施設	処理能力	600 t /24時間	600 t /24時間
	処理方式	ストーカ式	ストーカ式
	煙突高さ	100m	100m
	建物高さ	約35m	約30m
	余熱 利用 設備	川崎 市民プラザ	給湯(プール、風呂等) 冷暖房
施設内		発電(冷暖房含む) 給湯	発電、給湯、 冷暖房
併設施設	種類 (処理能力)	ミックスペーパー 資源化処理施設 (45 t / 5 時間)	粗大ごみ 処理施設 (50 t / 5 時間)

供用時（煙突からの排ガス）

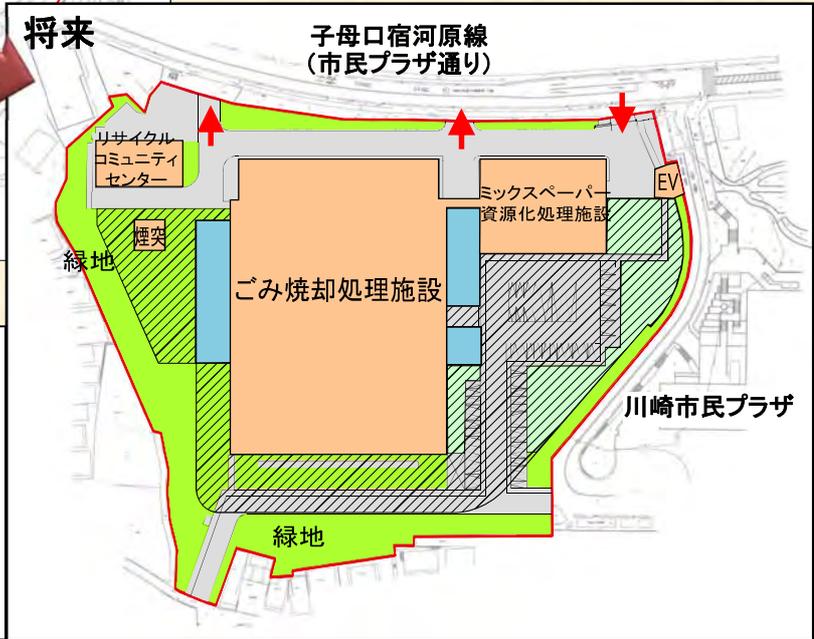
主 な 項 目	公害防止 自主基準値	（参考）	
		方法書時点	法規制値等
ばいじん	0.008g/m ³ _N 以下	0.01/m ³ _N 以下	0.04g/m ³ _N 以下
硫黄酸化物	8ppm以下	10ppm以下	400ppm以下
窒素酸化物	24ppm以下	30ppm以下	250ppm以下
塩化水素	8ppm以下	10ppm以下	430ppm以下
ダイオキシン類	0.008ng-TEQ/m ³ _N 以下	0.01ng-TEQ/m ³ _N 以下	0.1ng-TEQ/m ³ _N 以下

方法書時点より
さらに厳しい自主基準値

現況



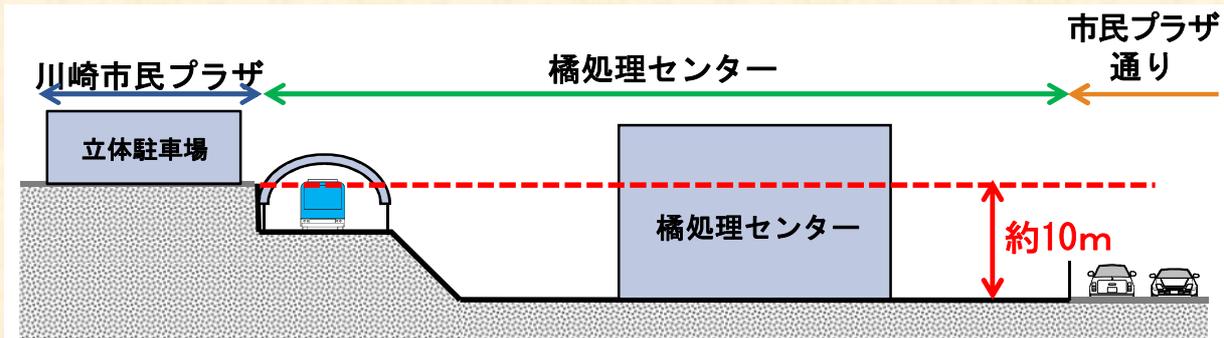
将来



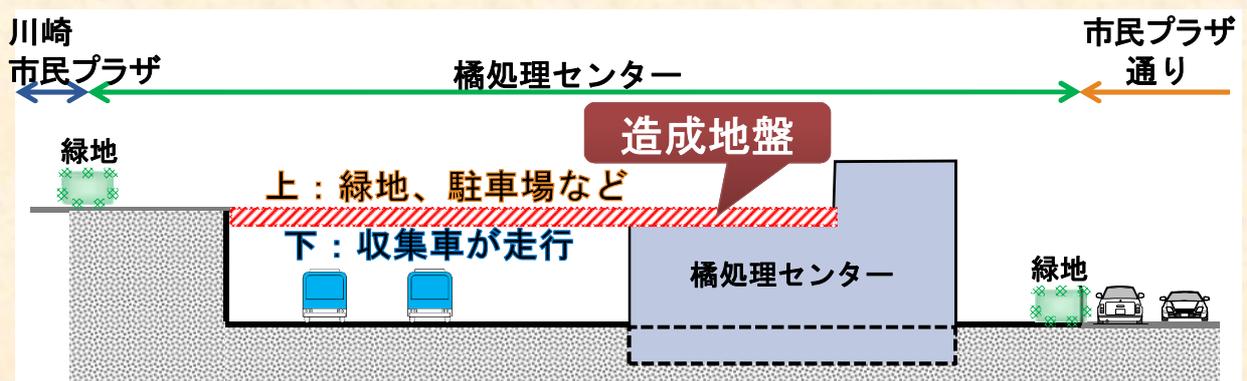
凡例

□ 計画地	■ 施設等
▨ 造成地盤	▤ 車路等
■ 緑地	■ 屋上緑化

現況



将来



川崎市民プラザとの一体性

- ・川崎市民プラザとの連続した広域空間の確保

防災機能

- ・広域避難場所として複数動線の確保

安全性の向上

- ・ごみ収集車両と歩行者の動線を造成地盤の上下に分離

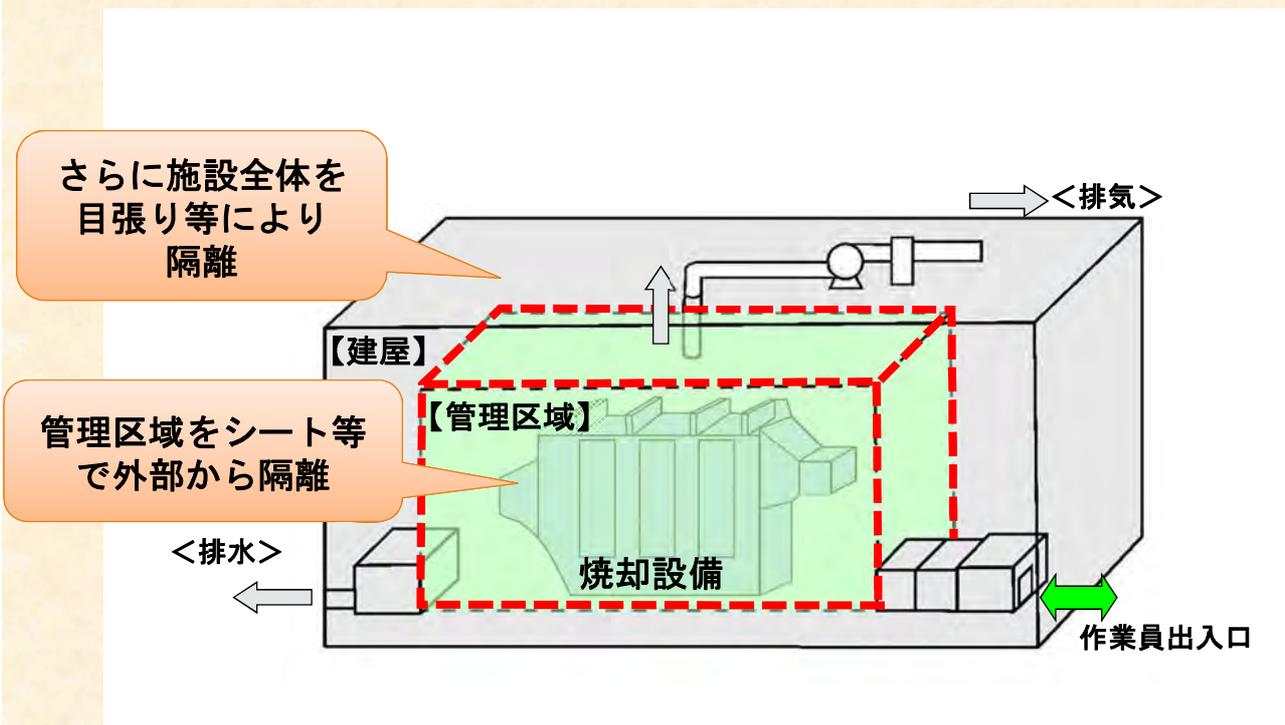
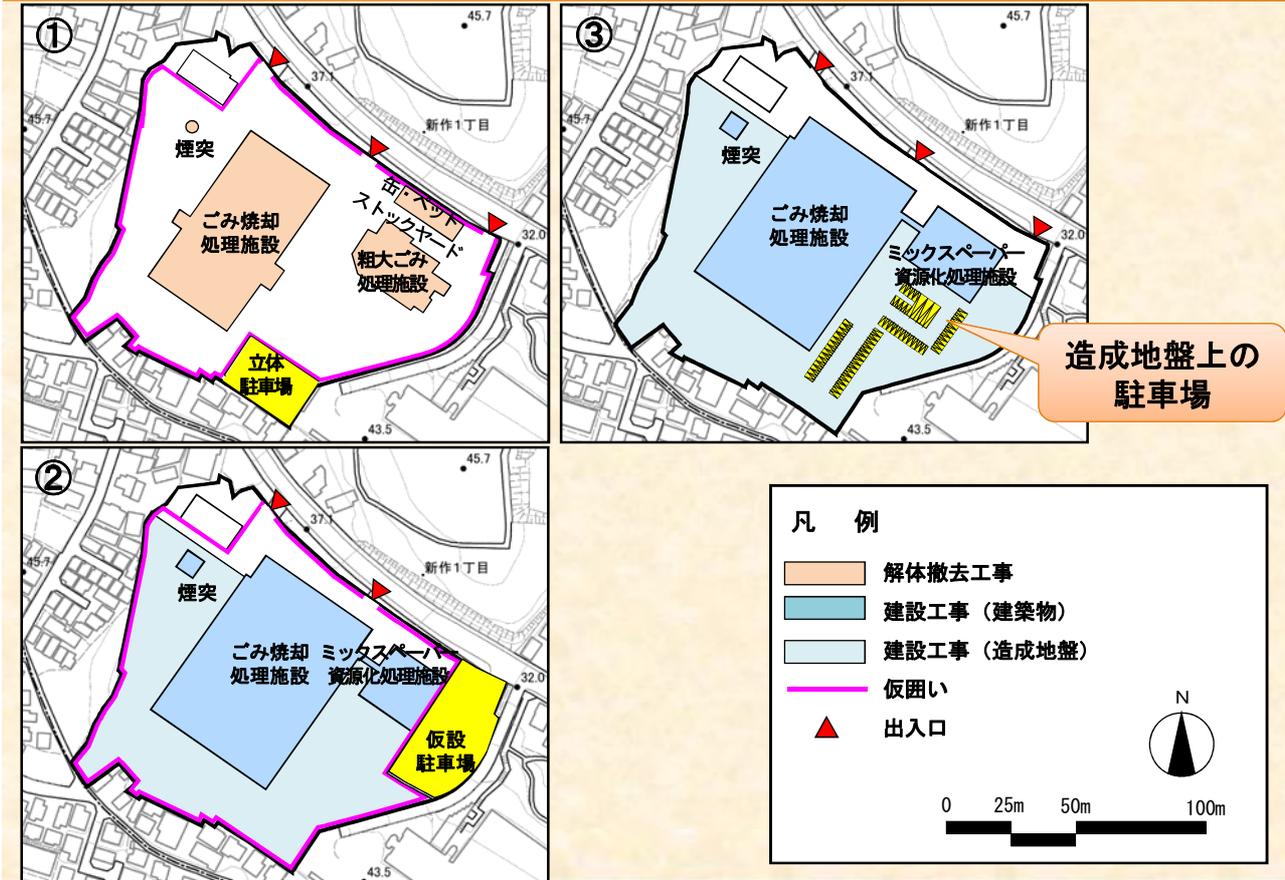
緑地の創出

- ・緑地の確保

環境への配慮

- ・ごみ収集車両の出入口を造成地盤下とし、悪臭、騒音、振動を防止

橘処理センター整備事業について**2. 工事計画**



条例環境影響評価準備書について

3. 環境影響評価項目の選定

環境影響要因

工事中



- ・ 建設機械の稼動
- ・ 工事用車両の走行
- ・ 建設工事等の影響

供用時



【施設の存在】

- ・ 建築物の存在
- ・ 緑の回復育成

【施設の供用】

- ・ 施設の稼動
- ・ 排ガスの排出
- ・ 廃棄物の貯留

大気

大気質 悪臭

土

地盤 土壤汚染

緑

緑の質 緑の量

騒音・振動・低周波音

騒音 振動 低周波音

廃棄物等

一般廃棄物 産業廃棄物 建設発生土

建造物の影響

景観 日照障害 テレビ受信障害

地域社会

地域交通 歴史的文化的遺産

安全

安全

温室効果ガス

温室効果ガス

19項目を選定

条例環境影響評価準備書について
4. 調査、予測及び評価の結果

- ✓ 環境に対して負荷を生じる可能性のある項目
(大気質、騒音、振動など)

環境負荷低減のための措置を講じることで、
影響が低減され、環境保全目標を満足します。

環境保全目標＝環境影響評価を実施するにあたって、
事業者が目標とする水準。
環境基準などに基づいて設定します。

環境基準

人の健康の保護や生活環境の保全の上で、維持されることが望ましい基準。

健康等を維持するための最低限度としてではなく、積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていく行政上の目標。

- ✓ 環境に対して負荷を生じる可能性のある項目
(大気質、騒音、振動など)

環境負荷低減のための措置を講じることで、
影響が低減され、環境保全目標を満足します。

本事業は、周辺環境との調和が保たれ、環境保全に十分に配慮した廃棄物処理施設の建替事業であると評価します。

大気質

工事中

- 建設機械の稼動に係る影響
- 工事用車両の走行に係る影響

供用時

- 排ガスの排出に係る影響



大気質：予測結果

準備書
P234

工事中 建設機械の稼動に係る影響

[最大付加濃度]

項目	予測結果	環境保全目標
二酸化窒素	0.042 ppm	0.04~0.06ppm のゾーン内 又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.070 mg/m ³	0.10mg/m ³ 以下

工事中 工事用車両の走行に係る影響



項目	予測結果	環境保全目標
二酸化窒素	0.037 ppm	0.04~0.06ppm のゾーン内 又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.062 mg/m ³	0.10mg/m ³ 以下

項目	予測結果	環境保全目標
二酸化窒素	0.037 ppm	0.04~0.06ppm のゾーン内 又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.062 mg/m ³	0.10mg/m ³ 以下

凡 例

- 計画地
- 区境
- 予測地点
- 工事用車両ルート
- 主要交差点

N
0 100m 200m 400m

- ・ 建設機械や工事用車両は、排ガス対策型のものを使用する



- ・ 計画的な運行管理を行う
- ・ 不要なアイドリングや空ふかしをしない

など

悪臭

供用時

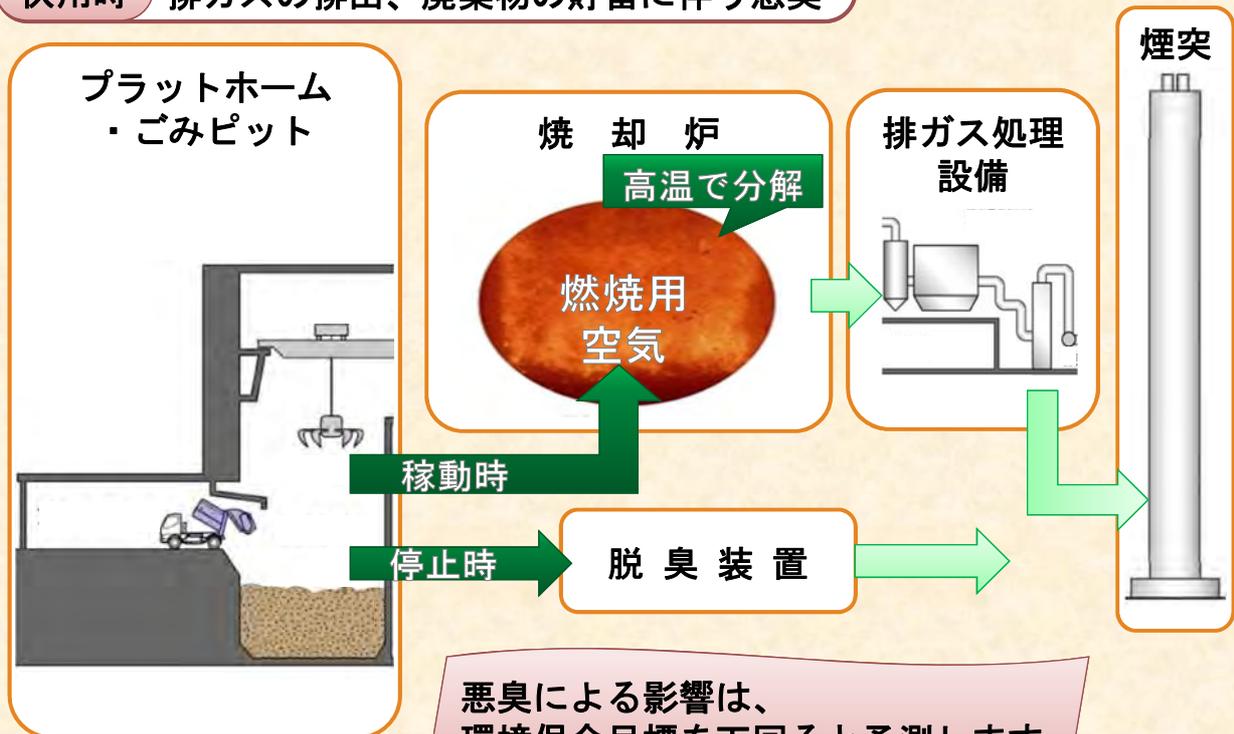
- 排ガスの排出に伴う悪臭
- 廃棄物の貯留に伴う悪臭



悪臭：予測結果

準備書
P282~286

供用時 排ガスの排出、廃棄物の貯留に伴う悪臭



悪臭による影響は、環境保全目標を下回ると予測します。

- ・ 自動扉により、搬入時以外は扉を閉める



- ・ 搬出入口を造成地盤下とすることで、臭気の漏洩を防止



地盤

工事中

- 掘削工事に伴う地盤の変位等

供用時 排ガスの排出に係る大気質

【最大付加濃度】

項目	予測結果	環境保全目標
二酸化硫黄	0.003 ppm	0.04 ppm以下
二酸化窒素	0.039 ppm	0.04～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.067 mg/m ³	0.10 mg/m ³ 以下
ダイオキシン類	0.025020 pg-TEQ/m ³	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下
水銀	0.002625 mg-Hg/m ³	0.04 mg-Hg/m ³ 以下

予測・評価の結果

煙突排ガスによる濃度は、極めて小さく、地点ごとの差はほとんどみられませんでした。

また、各予測項目とも、環境保全目標に対して十分小さい値となることがわかりました。

- ・最新の排ガス処理設備の導入を図り、運転管理を徹底。
- ・監視を行い、公害防止自主基準値を遵守していることを確認。



バグフィルタ

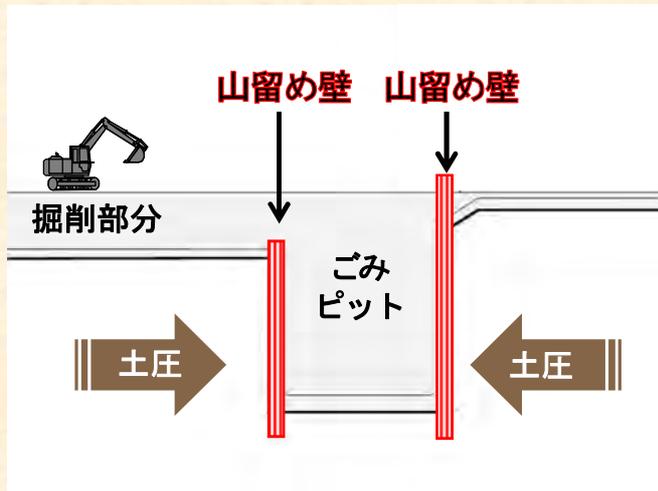


触媒脱硝装置



中央制御室

工事中 掘削工事に伴う地盤の変位等



掘削工事イメージ図

予測結果

- ✓十分に安定性を確保できる
- ✓掘削工事に起因する地盤の変形が生じる可能性は低いと予測します。

土壌汚染

工事中

- 建設工事に伴う土壌汚染

供用時

- 施設の稼動に伴う土壌汚染

工事中 建設工事に伴う土壌汚染

既存の橋処理センターの解体・撤去に先立ち土壌調査を行い、汚染の有無を確認。

予測結果

土壌汚染が確認された場合は、土壌汚染対策法等に基づき、適切な汚染土の処理・処分を行う。

供用時 施設の稼動に伴う土壌汚染

- ・ ゴミ焼却処理施設
汚水が地下に浸透しないように水密性のコンクリートを施工。
- ・ ミックスペーパー資源化処理施設
土壌汚染の原因となる物質の使用はない。

予測結果

土壌汚染の発生はない。

緑の質・量

供用時

- 植栽予定樹種の環境適合性
- 緑被の変化

